

2018年10月16日

2017年度のスチール缶リサイクル率は、93.4%

- 90%以上の達成は7年連続となります。
- 2016年度から始まり2020年度を目標年度とする自主行動計画2020（第3次自主行動計画）のリサイクルの数値目標「90%以上維持」を達成しています。

● 資源循環システムが確立している、スチール缶のリサイクル

- 飲料用スチール缶の分別・再資源化が社会に浸透しており、96%以上の自治体で分別収集の対象になっています。
- スチール缶スクラップは、ティンフリー・スチール化の進展等により高品質のスクラップとして高い評価を受け、全国の鉄鋼メーカーで安定的に使用されています。
- 国内で発生するスチール缶スクラップは、国内で製鉄原料として再資源化されており、輸出に回っているものは基本的にありません。

● 高付加価値化・高品質化が進展している、スチール缶のリサイクル

- スチール缶の一部が、全国の鉄スクラップ取扱事業者において高付加価値化のためシュレッター処理され、スチール缶スクラップ（Cプレス・Cシュレッター）以外の規格で鉄鋼メーカーに受け入れられていることから、2009年度より、この一部を調査して再資源化重量に加えています。

● 世界の粗鋼生産は高い水準を維持、鉄スクラップも内外で高い需要あり

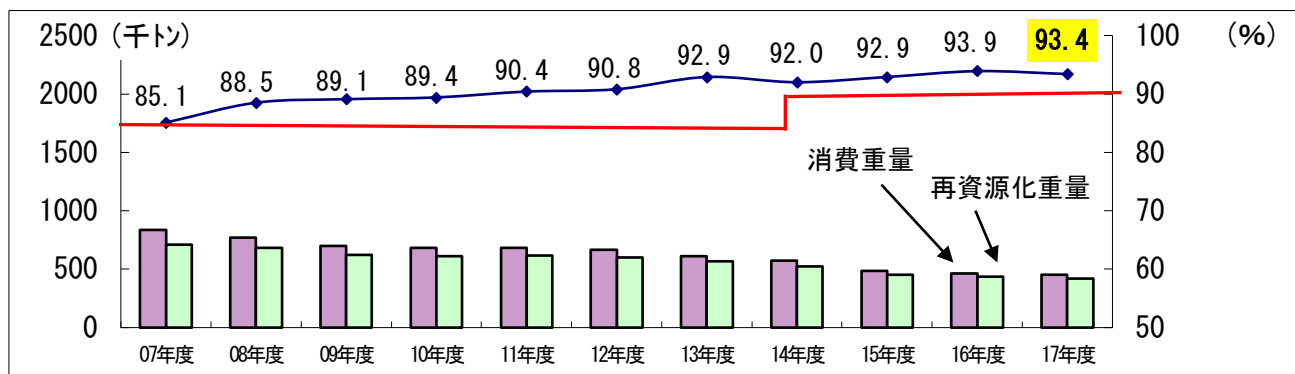
- 2017年の世界の粗鋼生産量は16億9千万トンで、過去最高となりました。中国、インド、トルコといった国が前年比で大きく生産を増やしています。
2018年の世界の粗鋼生産量は、初めて17億トンを上回る見通しで、鉄スクラップ需要も好調です。
- 日本の粗鋼生産量も年間1億500万トンと高く、高い鉄スクラップ需要があります。特にスチール缶スクラップは国内で自給できる貴重な製鉄原料として高い需要を維持し、高値での安定した取引が続けられています。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当：事務局 細田
電話：03-5550-9431 FAX：03-5550-9435
E-mail アドレス：recycle@steelcan.jp

2017年度のスチール缶リサイクル率は、93.4%

スチール缶消費重量 451,319 トンに対して再資源化重量 421,748 トンでした。



	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
消費重量(千トン)	834	772	699	685	682	664	611	571	486	463	451
再資源化重量(千トン)	710	683	623	612	617	603	567	525	451	435	422
リサイクル率(%)	85.1	88.5	89.1	89.4	90.4	90.8	92.9	92.0	92.9	93.9	93.4

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで 3 ヶ月かかると見做して、消費重量は 2017 年 1～12 月、回収・再資源化重量は 2017 年 4 月～2017 年 3 月のデータにより算出しました。

$$\frac{\text{回収・再資源化重量}}{\text{消費重量}} = 93.4\%$$

$$\text{消費重量} = \text{出荷量} - \text{缶詰輸出量} + \text{缶詰輸入量} + \text{空缶輸入量}$$

$$\text{回収・再資源化重量} = \text{鉄鋼メーカー等購入量} - (\text{アルミ蓋重量} + \text{異物})$$

全国の電炉メーカー・高炉メーカー・鋳物メーカー・ペレットメーカー等にスチール缶スクラップ(Cプレス及びCシュレッダー)利用量に関するアンケート調査を実施、その回答を集計。

これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者において、スチール缶スクラップがシュレッダー処理後、Cシュレッダー以外の規格で再資源化し、製鋼原料として売却した量を集計(調査により把握できた量のみ計上)。

上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及び水分等の異物を除いて算出。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 細田
 電話: 03-5550-9431 FAX: 03-5550-9435
 E-mail アドレス: recycle@steelcan.jp